

婦人關係資料シリーズ
参考資料第40号

労働者家族問題研究会議・懇談会記録

労働省婦人少年局

ま え が き

婦人少年局では、かねてから労働者家族問題に関する業務を扱っておりますが、労働者家族福祉通進政策を樹立するための資とする目的をもって、研究会議および懇談会を開催して、労働者家族の当面する問題を明らかにすることになりました。

研究会議は、昭和三十一年の六月から八月にかけて各婦人少年室主催で全国的に実施しましたが、懇談会は労使に分けて、六月と八月に中央において開催しました。ここにその要録をまとめて、労働者家族問題に関心をもちたい方の参考に供することになりました。

昭和三十一年一月

労働省 婦人少年局

目次

まえがき

労働者家族問題地方研究会議記録

一 概 要

二 研究内容

(一) 衣食住	六
(二) 子供に関する問題	三
(三) 保健	五
(四) 家族計画	八
(五) 家計	〇
(六) 家族関係	七
(七) 主婦が平常どおり家事が遂行できな場合の問題	七
(八) その他	八

中夫における労働者家族問題懇談会記録

懇談会(一) — 労働組合

一

一 概 要

二 懇談内容

(一) 福利厚生施設	三
(二) 家庭経済	五
(三) 生活技術	六
(四) 労働者家族組織	七

懇談会(二) — 使用者

懇談内容

(一) 企業が労働者家族の福祉施設と実施する場合の観点	九
(二) 住宅問題	〇
(三) 主婦会について	一
(四) 夜勤明け労働者の休養問題	一
(五) 労働者の欠勤について	一
(六) 主婦が病氣出陣等の場合の対策	二
(七) 労働者死亡後の家族対策	二

労働者家族問題研究会議記録

一 概 要

全国の婦人少年室主催で、今回各地で開催された労働者家族問題研究会は、研究会としてはいじめて催されたものであり、また出席者が使用者、労働者及び主婦の三者構成である点もはじめてのものである。この構成のために三者の発言が不活発であつたという結果が一部にはみられたが、三者で話しあつたことは概してよい結果を得た。すなわち個々の問題について、三者がそれぞれの立場から意見や希望を述べ、その場で解決さみたり、相互に理解が深まつたり、あるいは今後の研究課題として、それぞれが会社、労働組合、家庭へと持ち帰り、将来のよりよい措置が期待されるというような結果がみられた。また、このような会合への出席が不馴れなために、出席をためらつたり、発言が不活発であつた主婦も、これを機会に労働者家族としての意識にめざめ、その役割り、生活技術の向上等と目を向けて考えることに気づき、さらに「今後このような会合を計画して出席させてほしい」という希望が表明されたことは、成果の一つといえよう。なお、企業側も生産性向上の見地から、労働者家族問題の重要性を認めて、この種の会合を歓迎しており、また労働者へ労働組合側にも、このような会合をときどき開催してほしいという発言が多かつた。

研究内容は衣食住、育児、保健、家族計画等の生活技術の面に重点をおき、それに関連する事項として、家計や家族関係などもとりあげたが、全般的傾向として、「住」の問題に

最も関心が向けられたようである。

また、業種によつて特殊の問題がある。一定の地域に居住することを余儀なくされる業種では、それが概して僻遠の地であることが多いため、種々の問題が提起されておりました。また取組によつては勤務形態が特殊であつて（夜間制、夜勤など）、起床就寝が家族とともに規則的に行われないうちにおこる日常生活の諸問題がある。

前者の例としては炭鉱、鉱山等があり、密着や不毛僻地であるため、物資の自給が行われず、不足がちな生活と、子女の教育や社会に特殊な問題をもつてゐる。後者には、機関車の乗務員等運輸関係の労働者や夜勤の多い労働者があり、家族の日常生活と時間的なずれがあるため、主婦の非常な心労を伴ひ、かつ人間関係に影響を及ぼすことが、重要な問題となつてゐる。

以下生活技術の各面にわたつて話しあわれた意見等のうち、比較的多く発言されたもの及び特殊なものを取りまとめた。

なお参加者は、男子が多くついでにゐること、原始産業でないこと、販売、サービス等が二次産業でないことなどを条件として選定した左の業種の、事業場の現場部門に働く労働者（労働組合使用者及び主婦（労働者家族）で全国で五〇回の会合が開催された）。

業種名Ⅱ 工業（金属、機械器具、化学、窯業及び土石業、製材及び木製品、食糧品、印刷及び製本業） 鉱業、土建、交通、貨物取扱、通信の各業種。

二 研究内容

(一) 衣食住

衣関係

全都市勤労者世帯の家計調査では、被服の支出が年々減少しているが、この場合の出席者の中でも、被服に関して、それ程問題がなかったであろうが、衣関係の発言は極めて少ない。ある労組では、不用になった衣類の交換会を、ときどき実施しているといい、またある主婦も、着古した子供のために衣類の交換会が開かれることを希望している。じょうぶな衣類が比較的安価に市販されているためか、修理に関する発言は皆無である。

洗濯に要する主婦の労力は家事労働の中でも相当大きいので、主婦は次のようにいつている。

○ 洗濯に毎日多くの時間をとられるので、簡易洗濯所のようなものの設置が望ましい。それによってアイロンかけの内訳が生れる可能性がある。

○ 会社で電気洗濯機を備付け、時間制で料金をとって使用させてもらいたい。

これに対し、ある会社では

○ 一度会社に洗濯機を備付けたことがあるが、結局使用する人が、最後には同じ人はかりに限られ、全般的な利用とはなくなり、またしせんに使用しなくなつた。

といっている。便利な器具が省みられなくなつた理由は何であつたらうか。この問題に限らず、不成功に終つた場合は、その原因をよく調べて、より適切な方法を考える必要がある。

次に、労働者の作業衣について、三者がそれぞれの立場で意見をのべている。

○ 昨年試験的に、会社側と労組の両者負担で作業衣をつくり、一年一着を支給した（使用者）

○ 昨年の作業衣が好評であれば、今年は会社、労組、個人の三者負担で支給することを考えている。（労組）

○ 支給された作業衣は、生地が丈夫でよいが、ゴワゴワしており、洗濯に困難である。作業の性質上、生地がすり切れるというより、焼穴が多いのである。この点を考慮して、生地とデザインとを改善してほしい。また年間一着では足りない。（主婦）
この業種は縫工業である（従業員数一六六名）。なおこの会の終了後、出席した主婦の半数から、このような会合を今後も続けてほしいとの要望があり、会社としても好結果を得たので、今後会社が企画して、主婦と会合を開きたい意向であることが連絡された。

食関係

食関係における発言では、主婦が労働者家族としてその役割りをよく認識していることが認められ、労働による疲労の回復と、栄養の補給によって回復している。

に、主婦の努力が大きく出ている。販種によっては、弁当を二食もって出勤するとか、夜半に家を出るので、その直前に準備するとか、なお季節や嗜好をも考慮しなければならず、主婦の精神的肉体的負担は相当に大きい。主婦たちが弁当の副食の作りかたの指導を欲している点には切実なものがある。それは限られた、そして不足がちな収入で、最大の効果をあげようとする主婦の願いであるが、そのための技術と知識の向上が得られれば、これによって家計は実質的にプラスになるであろう。次いで僻地における食料の入手難が問題とされている。

○ 機関車の乗務員は二食分の弁当を必要とするので、夏季は腐敗しないものを送ぐ。冬季は夜中に出る直前に温い弁当を用意する。また乗務員には消化器系疾患が多く、その点からもおかつのくふう配慮が必要なので、副食の研究会があればよい。

○ 徹夜して帰る夫の疲労回復のために、料理の研究が必要である。また主婦が勉強するのにも男性の理解が必要である。

○ 夏は弁当のおかずに限る。会社に食堂を設置してもらいたい。

○ 弁当のおかずだけの講習会が開催されるよう、労働者で働きかけてほしい。

○ 生計費の中で切りつめやすいのは食費であるが、健康のためにもそれはしたくない。安価で、時間のかけられない栄養食の作り方の指導を望む。

○ 重労働の夫に多量の食物を与えることだけを考えていたが、それではいけない。こ

とが分り、今では栄養を考えて調理している。

○ 坑内環境が悪いので、弁当のおかずは特にからいものがよいが、特別の指導がほしい。

○ 主婦がこのように望んでいる一方、使用者の方でも次のような発言があった。

○ 炭鉱付属の病院で、労働と食物の両方とを調査している。坑内の高熱作業などに対して、どのように処置すべきか研究し、食塩やビタミンB剤を坑内で鉱夫に渡している。病院の栄養士が栄養指導に助力しているが、将来、会社に専任の栄養指導者をおきたいと考えている。

また、ある僻地では

○ 僻地の鉱山であるため、索道で運ばれる食品の量が少く買物列に入るのがおそくなる。たべる米がなくなってしまうときがある。

○ 主婦の発言があり、これについて二人の労働者と別の主婦はこういつている。

○ ないときはしかたがない。今度のときうまいものを作ってくれというところで、黙って済ませている。(労働者)

○ 弁当のおかずには臭いがほしい。(労働者)

○ 主婦がたがいにゆづり合ってわけあっている。(主婦)

また、ここでは脂肪分と甘い物を非常に欲しているが、これは硫黄精練のための亜硫酸ガスによるものである。このことで、産業による特殊な例であるが、日常生活の問題、食の解決も、個人的生活技術によるのみでなく、集団的な対策を必要とする場合がある。

ることかうかべる

住 関 係

衣食が一応充足している今日では、住の問題は大部分の労働者家族にとつて最大の心事のようである

ここでは、生活技術として住の問題を検討するのであるが、発言は必ずしもその面からのみでなく、施設の問題にも及んでいる。すなわち、社宅入居の資格や順位等のような現在住むための住居の問題や、労働者の死亡・退職による社宅の明渡し、あるいは自分で建築する場合の融資問題等のような、将来にわたつての住宅確保に関する問題がある。これはすまい方とは関係がないが、発言には大きな関心が示されている。次は現在の住居施設へ付帯施設を含め、についてであるが、その不備が問題となつていて、これは単に施設としてでなく、住いかたとも関連し、日常生活に密接な関係があるので、発言は切実である。庶民地域の狭小な住宅の場合、夜勤あけや、交替制勤務の労働者に、睡眠を十分にとりせようとすると主婦の苦悩は並々でないが、この解決策は未だ十分とはいえず、労使ともに苦慮し対策をもとめている現状のようである。住宅へ社宅へが密集かつ狭小であることに關する発言を整理してみると

○ 住宅が密集し、手狭であり、三交替制であるため、互に氣をつけてはいるが、睡眠が十分でなく家族中が疲れる

○ 夏は暗くして閉めきるので、ねぐるしくて疲労が回復しない

○ 夜勤あけの夫が眠っている日には、内取のミシンかけもできない、育児にもこしつかえる

○ 家の者だけならゆっくり休養させるように細心の注意を拂うが、横一重で別世帯が住んでいると、隣壁まで静かにしてほしいとはいえない

○ 夫をゆつくり休ませたいと思つと、子供を連れて外に出るが、雨天の日は全く困る

○ 休息している間の末客は断るが、親戚の者など義理が先立ちついに起してしまつて、一般の人の中にも、まだ無理解な人が多く、夫だけが大事なのだろつと皮肉られる

など、種々の困難が伴っている。一方次のような発言もある

○ 休養している家の軒先に赤い旗など標識を出してはどうか

○ 炭鉱労働者の住宅を二階建てにして、でざるだけ安眠できるようにした

○ 七人以上の家族には、原則として二軒与えるが、退職しても家を明けない人が多くて困っている

○ 解決の一策として遊園地の設置を考えているが、経費その他で実現困難である

2 子女の教育の面からは

○ せまい社宅の中で、耳頃の子供に対しては、母親として性に対する心づかいを

する。

○ 子供が大きくなるにつれて、狭くてよいから子供の勉強部屋が一室ほしいと思ふ。

3. また、狭い社宅のすまい方について

○ 釘屋の整理整頓や、立体的に使用するくふうをする。

○ 施設の不備について、保健にも関連するが、上下水道の問題も含めて社宅の不備についての、主婦の不満が多い。

○ 家が道より低く排水が悪い。

○ 水道の出が悪く、ときどき臭くて使えない。(工場の二硫炭素がときどき流れるため、今後善処するなどの使用者の発言あり)

○ 井戸が外にあり、屋根がないので雨が降ると大変不便である。

○ かまどが不備で火の用心が悪い。

このほか、共同の場合の便所、炊事場、水道の教養の不足や、廊下、出入口の奥など、日常生活ばかりでなく、火事などの際の危険性も含めて、社宅の不備が大きく問題となっている。そして

○ 社宅の不備があるため、生活技術の問題は手のつけようがない。

○ 社宅が遠く不便な場所があり、日常生活に種々の困難がある。
など主婦と嘆かせている。

(二) 子供に關する問題

労働者である父と子が顔を合せる時間が少ないことは、労働者家族の持ちようであるが、それが育児上の問題として出されている。

1. 家庭におけるしつけと教育について

○ 父親が毎日三時間残業しているので、子供達とゆっくり顔を合せる時間がない。

○ いっも夕食に父がいないので、子供は友達の家とくらべて淋しがる。

○ 父も子供の勉強をみてほしい。母ばかりがしつけをしていると、ついこざござが多くなるので母のいうことはきかず、父のいうことならよくきく。

○ 日常生活が不規則になりがちな勤務状態にある家庭であっても、子供のしつけを考えたら、一般の規律はたてるべきだろう。

○ 子供の教育や生活のしかたについて近所同士協力できるとよい。

○ 家族連合会をつくり、子供の教育、環境等を、月一回の話しあいの会をもつて解決している。

○ 主婦が働くので、子供の教育は放任状態である。

育児や子供のしつけなどについても、愛情のみでなく、かしこさ、明るさが必要であること、そして某田的に居住する場合は、近隣との話しあいも欠かせないこととが分る。

2. 進学について

○ 子供だけはせめて上の学校に入りたい。教育費をみてもうえる制度があるといふ。
○ 青島（炭鉱）であるため、中学校までは島内で済むが、高等学校からは遠くへ子供を出しており、下宿代や学費など教育費がかさむことが、この地では大きな問題である。

○ 学校が山元にないので、就学期に及ると下の部落に移転するが、子供が環境的におくれることを心配している。

○ 育英制度が強化されて、進学の道がひろげても、その間子供を扶養する余裕がない。

○ 学校は通学に汽車で往復四時間もかかる。

○ 不動産がないので、学校に与えられるだけはやりたいと無理をしている。
○ 労働者の中には、子供には高い教育を受けさせて、管理職につけさせたいと願うものが多く、一般に子供の教育には熱心であるが、経済的にも地域的にも恵まれないといふ点が問題として出されている。

3 子供の就職について

○ 中学校卒業の子供に適當な職場がないと、不良化の問題もあつて困る。せむ適取につかせたい。

○ 鉾山には親子三代住んでいるものもあり、子供を全訓採用することは無理だ、できるだけ採用している。

○ 子供を就職させても、派焼や生活のちがいがら、二ヵ月くらいで帰つて来てしまひ困っている。（一俣地の鉾山の子供）

○ 社会性の不足のものが多く、鉾山の子供の、他の取業への順応性をとりあげなければならぬ。

なお、労働者の経済力では高校進学より就職が先決であるとして、中卒の子供の就職の機会を拓けるための関係機関の協力を望む声がある。

4 託児施設について

子供が成長したら学費当があるし、主婦が手とつてからは悪うように付けないからと、子供が小さい間に、内取や共稼ぎをするひとびとの要望として託児施設の問題がある。これに關する希望や対策には次の例がある。

○ 婦人の家庭で子供を預ることを、婦人会が事業所と連絡をとつて組織化してはどうか。各家庭をみて地理的に近い人が選べるというようにすれば、働く婦人も助かるし、家庭婦人も収入になる。このようなことの実現を望む。

○ ある民間団体で、夜間保育所を開設している。現在、深夜十二時まで一人、九時まで数人あづかっている。

(三) 保健

1 労働者の保健について

○ 業務員は生命の危険を伴う仕事なので、仕事の安全上からも、からだぐあいが悪

い場合は早目に休暇を利用するようにすすめている。(家族)

- 夜勤の場合、昼間労働者が魚釣りに行ったり、家事を押しつけられたりして、過労になる心配が強い。家族も仕事に対する理解をもつようにしてもらいたい。(使用者)

- 三交替で食事時間が不規則なため、胃腸病が多い。また重労働のため、心臓や肝臓が悪い人が多い。

- 長時間労働で疲労の激しい夫のため、栄養には特に気を使う。

2 家族の健康について

- 夫になるべく休養させるために、夫を送り出してから夜の一時頃に寝る。そして通学する子供のために朝はふつうに起るので、主婦は睡眠不足になる。
- 僻地では急病、重病人などの処置に困る。特に積雪五ヶ月間は困難である。
- 冬に流産で重症となり、担架でになって山を下り非常な危機にあった。夫として流産など起らぬよう、よく注意した生活を心がけた。
- 従業員が出先で不安に思うのは家族の病気で、従業員自体はもちろんであるが、その家族に病人があれば仕事にも影響する。そして直ちに他の従業員に負担がかかる。(使用者)
- 家族の健康診断は絶対に必要である。
- 家族の健康診断を行って早期発見につとめ、よい結果を得た。

- 年一回主婦の健康診断を実施している。

- 社宅にいる家族は四〇〇世帯が集まっているので、健康診断を定期的に実施しているが、その他の家族は散在しているため実施不可能である。

- 会社の診療所の家族の利用率は非常に高い。診療費は健康保険以外の二割引きである。

- 家族の健康診断は事業場の全額負担でやってほしい。

- 家族は半額負担しなればならないが、現金のないときは総務課に診療券があるから利用するといふ。(使用者)

- 夫達は給料を差引かれるので診療券を使うことを嫌がるので、三ヶ月又は半年位の分割払いを考えたほしい。(主婦)

3 健康保険について

- 健康保険で家族が負担する半額は非常に大きい。

- 入院患者が出た場合、付添に人手がなくて困る。健康保険で付添者が雇えるようにしてほしい。

4 その他

- 環境衛生に会社が力を入れて、蚊や煙の撲滅に協力してくれているので、主婦はあまり音が折れない。

- 夫の会社から内職の仕事が流れるので、妻の内職には困らないが、納期がきまつ

ているので、子供の世話も家事も投げだしてするようになる。つとめから帰った夫も、疲れを休めることもせず家族と一しよに内職をするようになる。このような状態は、主婦や夫の過労を招き、放置されている子供の保健上も好ましくない。

(四) 家族計画

家族計画に關しては、戦後急激に一般の認識が深まり、社会としても個人としても真剣に考えられている。しかしまだ啓蒙を必要とする段階にあるものも一部にはあるようであるが、特にこの問題に成功したことと全国的にも有名な一歩は、その成功した点について

1. 会社、労組、主婦会が一体となつて、十分な計画の下に予算を組み、組織的な活動を行つたこと。
 2. 組織活動を実現する前に、医師の非常な熱意と努力があつたこと。
 3. 特別な専門的な人財を配置したが、これらのひとびとが、献身的な活動を行つたこと。
- などをあげている。

この一歩は、まずモデル地区を指定して、広い範囲の啓蒙宣伝からしだいに狭いグループ指導、個人指導とすすみ、指導後二年間で指導前の妊娠率の五〇%減、中絶数は二五%減という好成績を得た。それから指導員の免許証を有する助産婦、保健婦を募集して専任の指導員とし、その後も月二、三回反省と研究の会をもち、指導の徹底と普及を

計っている。

その他一般について、まず実状は

- 中絶よりも調子が大切であるということは分つていても中絶する人が多い。どうしたら徹底するだろうか。
 - 土建業の労務者の家族には子供が多いのが通例である。六人七人の有子家庭はふつうである。産制の知識もない。
 - 会社、労組、婦人会、労組主婦会は家族計画の重要性を痛感し、積極的になつたが、現実には何々の人の意識はまだ低い。
 - 病院の施設が完備しており、便利なので、つい産制を怠る結果になつてゐる実情もある。
 - 夫の自覚ないし協力が絶対必要なので、労組の会合のとき、ときどきこの問題について話しあつてゐる。
 - 重労働で疲労が激しいので、家族計画は夫も理解がある。
 - 希望は主婦から出されているが、
 - 夫に工場で産制教育をしてほしい。
 - 将来は会社側も雇員の長償配給等を考慮してほしい。
 - 保健所の指導を強化してほしい。
- 意見として次のものがある。

- 正しい産制には夫の協力理解が必要である
- 母体保護の立場から、正しい受胎調節を実施すること、子供がいく人ほしいか、家の経済等を考えて夫婦納得の上で計画する
- 用具が安く入り、保健所の指導があれば徹底するのではないが、なお、主婦の希望する子供の数は、三人が最も多いようで、経済が許すなら五、六人を希望するというものが僅かであり、概して年輩者にこのような傾向がみえる。

(五) 家 計

一般に労働者の収入は一定しているの、家計の運営は技術的に容易であるべきであるが、二、三では家計の計画性が問題となっている。しかし主婦達は、少い収入を効果的に使うために消費面で苦心しているし、またいくらかでも収入を増そうとして内職に励んでいるので、その中から生れたさまざまな意見や希望をもっている。

1. 家計の運営について

——主婦の計画性について——

- 主婦の生活の計画性がない
- かけ賣いで不必要なものまで買い、計画性がない
- 炭磁ではまだ富越しの金は使わないとか、計画性のない出費で浪費し、給料日直近には漬物だけで暮らすという気分が多分に残っている（炭磁の主婦）
- 一般に建設業の労働者の主婦は家計について計画性が全然ない。収入がはいった

ときに一度にぜいたくをして、必要なもの（電気、水道代、教育費、家賃等）を取除いておくといふことを知らない。人に借りることを何とも思わない。（建設業の主婦）

- 生活困窮者に対して金社より融資してほしいとの申込みがあったので、労働組合とともに調査したところ、家族に病人がいるもの、家族数の多いもののほか、生活設計のまずいものがあつた。計画的な支出をしていないばかりでなく、かけ賣いの金額を自分でつかんでいない人達であつた。（使用者）
- 仕事の繁忙によつて収入に差があるが、多い月でも貯蓄にまわそうとしない。給料の前借りや借金をするものはいつも決まっている（使用者）

——家計遂の記載について——

- 主婦が忙しいのと、不時の支出が多いため、家計遂がつけられず、予算生活ができていない。

- 家計遂はつけていない

同じことだから、忙しいから、収入が少いから、記録習慣がついていないから、様式がむずかしいから（このような理由でつけていないというものが比較的多い）

- 各家庭の実状に応じて指導してほしい
- 主婦のレクリエーションの費用が家計に上つていない（労組）
- 2. 共同購入について

- 厚生課で購買部を設けて、市価の二三割安で日用品を販売し、実質賃金を上げようとしている（使用者）
 - これからは家族の福祉向上を図っていききたい。ヒリあえず物質の共同購入で、生活に少しでもプラスになるようにしたい（労組）
 - 島であるため全然自給ができず、食費が高くなるので、会社、労組ともに共同購入に力を入れている。
- このように考えで出発した共同購入は、どのように迎えられるか、主婦や労組の声は――
- 会社の購買は遠くて時間がかかるし、足がつかないので、かえって高くつく。
 - 以前に会社で共同購入をしたが、分配したものを片かなか家に持帰らない。それで家庭からも不評判で、会社でも忙しいのでやめてしまった。
 - 労組が消費組合を作り、各戸への配達を實現したいと現在考慮中である。
 - 消費組合や生活協同組合を育てるものは、主婦であることと自覚してもらいたい（労組）
 - 主婦に生活の計画性がなく、欲しいときに欲しいものを買える近所の店の方が、値段が高くても便利だといって、共同購入に対して積極性がない（労組）
 - 共同購入について、主婦の注文や連絡がとれるように、家庭の主婦の団体があればよい（主婦）

次にあげるのは特殊な例であるが、共同購入の問題として、くふうの余地がありそうである。

- 山元部落から店のある部落まで三里ある。米と味噌は会社で購入するが、副食その他日用品についても会社で便宜を与えてほしい（主婦）
- 右についての対策として――
- 三里の往復にはできるだけ会社のトラックを利用できるようにしているが、世帯数が少い（八世帯）ので、思うようにいかない（使用者）
- 各世帯相互に助けあつて買ってきてあげたりしている（主婦）

三 内販について

内販をしている主婦は非常に多いが、仕事切れと低賃金の兵に一般の人の悩みがある。

- 家計の一助にへあるいは子供の教育費に、内販をしているが、仕事が切れるので困る。

い

- 内販は賃金が安く、仕事が続かないという難点がある。内販のあつた旋模園が好し

- 共稼ぎの人の乳幼児は社宅の人達が預り、よい内販になっている。
- 次に内販を過度にする場合の問題としてあがつた声がある。
- 会社の生産に平行してチェーンの内販がある。子供でもできるような簡単な仕事

であるが、疲れがはげしくて仕事に連われるように忙しい。家事、育児、教養の面がある所かになつてゐる。収入は一ヵ月平均三〇〇〇円以上。会社としては生産に直接影響するので、内職を必要としてゐる。

○ 製本の下請工場に働く者の家族——月刊「通商雜誌」の製本の内職をするが、いつも納本締切に迫られ、繁忙時には小学校、中学校の子供までも休ませて手伝わせる。学校では一クラス、殆どが欠席状態となる有様である。主婦も内職に迫られて新鮮な生活設計への意欲がない。

（これについては「保健」の項の「その他」の節においてもとりあげている。）
 4. その他

家計は、衣食住、育児（教育）、保健等、生活のあらゆる面に関連して発言されている。たとえば「住」の問題では、純粋に技術的なすまい方の面以外に、融資を受け、月々返済したから住宅を建築することや、一人一〇〇〇〇円もかかる義務教育費の国庫負担についての要望や、疲労の激しい夫のために欠かせない世代についての悩みや、健康保険に関するものなどであるが、将来の問題として厚生年金に関するものが相当にあつて、それは

○ 厚生年金を老後の生活にあてる予定にしている。
 ○ 厚生年金を最低六万円位に増額することを望む。
 ○ 停年は五五才、厚生年金は六〇才にならないと受給されない。この向のニヒと、

年金が小額である其に不安がある。

○ 子供に経済的負担をかけないで暮らせるような、老後の保障を固く真剣に考えてほしい。

などである。このほか家計に関係ある意見として次のものがある。

○ 町の商店の商品に値段が示されていないことは、他店と比較できない不便がある。

○ 消費都市に比し、日用品物価が非常に高い。

○ 夫の月給を知らない人が出席者の $\frac{2}{3}$ もいるのには驚く。組合が会社に向合せられれば知らせる。主人の方にもその実教育してゆきたい。（労働組）

○ 内職をするより買物をしようとした方がよい。

○ 儀礼的な贈答を煩人ですることをやめて、社宅で一定の額をきめて出す。それ以外に絶対に出さないことを申合はせている。

○ 配給所の販売を愚痴つて現金扱いとした。これは予算購入の利款となつてゐると思ふ。

（これはある鉱山の使用者の発言であるが、主婦の方も苦い経験をもつていればこそ実行できるといふ。）

(六) 家族関係

○ 生命をかけての機関車乗務員は、家庭に心配ごとがあった場合、災害が多いと聞いているので、出勤前には神経にさわるようなことは言わない。乗務員の妻は言いたいことも言えない人間になると思う。(主婦)

○ 夫の勤務時間が夜則で、連日の残業で帰宅がねそいたり、一家田んどの時間が全くない。夫の勤務時間がふつうであつたらよいと思う。

○ 作業中の事故の原因には、家庭の不和やトラブアルが大きな要素となっていることが非常に多い。その点建設業などでは、単に労働者のみの労働管理だけでは十分でない。(使用者)

○ 主婦もときどき夫の職場を見学すれば、仕事に理解が深まり、たがいに不平がなくなると思う。(労組)

○ (結婚したいが住宅難であるという意見が出たのに対し)住宅より嫁姑の問題の方が結婚を阻んでいる。婦人仲間等でもっと啓蒙してほしい。(労働者)

○ 主婦の社会活動が活発になるにつれて、外に出る時間が多くなり、夫の不満もだんだん大きくなっている。夫の協力も必要であるが、もっと会合の時間等、合理的に考える必要があると思う。(主婦)

(七) 主婦が平常どおり家事を遂行できない場合の問題

主婦が病氣、出産等により、平常どおりの家事、育児等ができない場合に、労働者の

勤務上にどのような影響があるか、またどのような措置対策がとられているか等の問題については、非常に関心をもちて話しあわれた。今後の研究課題として会社に帰帰し、措置対策を緊急に検討することになったというところもあり、家事の都合による欠勤は労使双方の問題となっている。

○ 経済的に人を雇う余裕がないので、夫が欠勤して家の用事をする。

○ 近所で相互に助けあう。

○ 家族に病人が出た場合、衛生管理科に看護させられ、絶えず従業員の家を巡回し保健指導をしている。

○ 妻の出産の場合、夫は三日以内の出産休暇がとれる。

(イ) その他

○ 労働者の主婦は生活技術を身につけようとしなさい。(使用者)

○ 主婦は一般にも話、お茶、二のみが多くて、勉強の時間をつくらない(労組)

○ 婦人の社会的関心が極めて低い。また夫の仕事を理解している人も少い(労組)

○ 炭鉱では昔からの習慣で、明日の生命の不安を思うため、今日一日を享樂して生きようという考えがある。

このような批判がある一方

○ 飯山の家庭生活は単調で、会社への依存性が強いが、これから脱却させようとする会社、主婦達の自立性が感じられた。

○ 強度の労働、長時間の労働に働く労働者の家族は、他の勤務者の家族に比べて、心づかいが多いように思われた。

この室長の感想があり、主婦自身も

○ 労組活動の中に、職場や家族を明るくする運動を繰りこんでほしい。

○ 従来の労組主婦会は、組合のストライキのときばかり動員されていた。組合はぜひ生活技術の問題を積極的にとりあげて、主婦会が自主的に実生活の問題ととりくんで行くように努力すべきだ。

といっている。集団として考えあわなければならぬこととしては、次のようなことがあげられている。

○ 会社の寮は安いが、不便で気がねが多く、転制が家族にまで入りこんで圧迫感をもつ。

○ 集団になっっている社宅は生活がしにくい。他人に生活を見られているため、いつも気を張りつめている。

○ 社宅では秘密が保たれない。小さいでき事でもすぐ振がってしまう。習慣等について

○ 金、正月には、長男の家に兄弟が集る習慣があり、特別支出となって困る。

○ 慶弔等に同僚や職場から贈られた金品に返礼をする習慣がある。

○炭砒の社宅であるため、電灯料、住宅費とも時代ばなれた安さであるのに、毎旦生活に追われている。その一因として、交際が非常に下手であることがあげられる。会社主催の家族同伴レクリエーションに、家族の出席が殆どないとの使用者の発言に對して主婦から

○着物のことを考えるとわずらわしい。

○男はお酒をのんびりいるので面白くない。

というような発言があるが、生活技術に関連して、考えあつてよい問題であろう。

この会合では、三者が話しあつた意義があつたというような問題の発展や解決を得た例がいろいろあつたが、次にあげるのは今後の研究課題として残るべき一例である。

○給料日の翌日出荷が減少するのは、労働者や主婦の怠惰のためではないか。栄養向上など主婦の心づかいで何とかならないか。(使用者)

○ひどい重労働なので、とても一ヶ月は動けぬ。最低必要な生活費を稼いだら、あとは休みたいのがゆりぬ労働者の気持だ。(労組)

○主婦はできるだけ栄養や疲労回復剤などを手えて休まないようにすすめている。またそのための研究もしたいと思つている。(主婦)

中央における労働者家族問題懇談会記録

懇談会(一)——労働組合——

出席者(順不同)

全日本労働組合会議

全日通労働組合

全日本港灣労働組合

国鉄労働組合

全日本海員組合

全日本造船労働組合

全国石炭鉱業労働組合

労働組合の懇談会出席者は、全国組織の組合幹部のかたがたですが、懇談の性質上、その発言は必ずしも全組合の代表としてもののみではなく、その所属する事業場に関するものや、個人の意見である場合もあります。

一、概 要

港灣、海員、造船、日通その他各労働組合によつて話しあわれた結果、各産業の異なる労働形態の特殊性が強く認められ、それぞれが大きな問題をもっていることが明らかにされた。特殊問題としては次のものがある。

(一) 港灣労働者は狭いしけ内に家族とともに居住し、しばしば生命の危険にあり、児童の就労や、はしけの移動による通学不能等の深刻な問題があり、目下この打開策に苦慮している状態で、家族の福祉のための積極面をとりあげる段階にない。

(二) 海員は長期にわたる海上生活のため、妻の家庭管理能力が大きく求められている。また港灣、海員ともに二重生活による経済的負担および港灣近辺における労働者住宅の確保が当面の問題となっている。

(三) 造船には事業の繁困がおよぼす種々の問題がある。ブームの際は連日の残業から過労を来し、それが災害の要因となるので家族に不安をもたらしめている。また、みかけの増収で家計を不健全なものとしている。これは炭鉱労働者にも共通の問題である。なお、一般問題の中から、労働者への要望として、特に左の二点が強調された。

(一) 労働者は産業労働者住宅の建設について、大企業ばかりでなく、地域的産業的重点的に考慮して、小企業の労働者住宅の建設に努力を望む。(注)厚生年金還元融資のうち住宅は、三十一年度三〇〇人以上、三十九年度四〇〇人以上の事業場でのみ適用された。

(二) 生活技術指導ならびに労働者家族会の組織化指導を望む。

(三) 家族会の主婦連に内取の紹介、指導を望む。

二 懇談内容

(一) 福利厚生施設

1 住宅

○ 港灣労働者は経営者の間接的な強制により、狭い(一〜二疊)はしけ船内に家族全員が居住している。はしけが転覆して子供が海に落ちたりすることもあり、生命の危険にさらされている。家族(妻や子供)も休業をする。又、家(はしけ)の移動で子供の通学が困難な場合があるので欠席が多い。このような実状にあるので、住宅問題はぜひとも解決を要する問題となっている。しかし零細企業であるため厚生年金還元融資は受けられず、自身寮的なものしかできていない。船によっては児童寮が設けてあり、帰校した子供に親のいる船について連絡する。寮は労使の共同出資による(地方公共団体の補助あり)。

○ 海員の場合は船が入港するたびに家族が去何くので旅費がかさみ、海員の陸上海上二重生活による生活費の加重とともに負担を更に大きくしている。それで港近くに住宅を確保することが先決問題となっている。戦前は京浜阪神地区に集結して住宅があつたが、戦中強制疎開をし、いまは住宅難で済めない。戦後間もなくは、海員は公営住宅に優先的に扱われ、阪神方面に三〇〇戸、横浜に一〇〇戸を確保した。公営住宅入居はだんだん厳正になってきたので、自力(住宅金融公庫)で建てたために、横浜に土地を確保し、居住区の枠を外して公募した中に入り、九八戸中、六〇戸を海員がかく得した。住宅問題は全政府の責任で解決をはかるべきだ。

○ 日通は大会決定事項として、住宅問題の解決を会社に要求することになった。なほ転勤や自宅社宅の問題をどうするかについては研究中である。

○ 全労としては一般問題として、産業労働者に長期融資の産業住宅の建設を望む。港湾の場合は、さらに労務時間に問題があり、特殊な問題も含む。厚生年金還元融資を受けるものを、地域的産業的重点的に割当ててゆくのでなければ、厚生省から都道府県に分けたのでは適切でない。大企業は自力で社宅を建て、小さい細企業を重点的に救うこと。

2. 購買施設

○ 海員は港に安く購入できる施設をもっている。

○ 日通、造船ともに生活協同組合活動を行っている。

3. その他

○ 水道施設（港湾）

はしけ船内で溜った泥溜物、灰等等の用水のために、はしけ溜りに水道施設を設けることに努めている。多少地方公共団体の補助がある。（労資出資）港から遠く離れた地点に水汲みに行く不便を解消しなければならぬ。

○ 病院施設（造船、日通）

会社が病院をもっているが、家族も利用しているので、定期的な健康診断ということ。ころまでは行っていないが、医療方面ではあまり心配はない。

○ 児童遊園地（造船）緑地帯（海員）

住宅密集地に会社につくりせた。

○ 幼稚園（海員）

海員は幼稚園をもっている。

(二) 家族経済

1. 家族給

○ 港湾では四五年前から家族給は据置きのみで、本人給のみ上げている。

○ 全労、造船—家族給を上げないのは一時的な傾向である。全然支給しないとこゝろもある。社会保障に入るべき種類のもので、家族給にはへい害がある。

2. 共済制度

○ 造船は八月から実施の予定で、火災、生命の共済を考えている。掛金年三万円位、全焼一〇万円、傷害一〇〜一五万円、死亡二〇万円。

（造船は公傷、死亡が多、一日二三件の日もある。安全帽の過熱による疲労のための災害が多い。）

○ 日通は共済制度については、それができれば組合費の増徴が考えられるので、それを嫌って足がみ状態である。

○ 海員は養老、失業、災害などの総合的共済給付制度がきまった。三十二年度から開始される。組合費一人平均五万円である。

3 貸付制度

○ 造船では大学通学の子弟の在学期間に、月額五〇〇〇円まで貸付け、返済は一五〇ニッ年、退職金で返す。

○ 日通では家族会を通じて労金からの融資をはかっている。

4 健康保険

○ 造船は会社経営の病院を有し、家族は¹/₄の負担。

○ 日通は、家族も全額無料となる。

○ 港湾は家族の健康診断どころか、本人さえやっていない。

5 その他

○ 日通は物資あつ旅（ニ刺安）、労金貸出、クーボン券等を扱っている。

(三) 生活技術

1 家計

○ 港湾、海員とも二重生活のため家計負担が大きい。

○ 造船はブームの際は残業が多く、一ヶ月二〇〇時間残業の例もある。時間外手当を含む月収六万円を無計画な家計で消費する。この面の指導が必要である。

○ 掛売、クーボン券等でルーズになりがちである。

2 家族計画

○ 日通—平均年令三三才、扶養家族数四五人

会社は家族給、健保の点から家族計画をとりあげている。

○ 全炭鉱は家族計画に力を入れている。

常磐炭鉱では家族計画に会社が一定の金額を便うことを労協協約できめている。保健婦が巡回指導をしている。

○ 造船も家族計画はやっている。

3 子弟教育

○ 造船では青年部で計画を立て、日曜日に子弟の勉強をみる。

○ 海員は幼稚園をつくったが、子女の教育まではやっていない。しかし子弟に高い学校教育を受けさせる気風が労働者間に強い。遊学の子をその地の婦人会員がときどき親代りに見廻るという案をもっている。

(四) 労働者家族組織

1 組織化の状態

○ 海員—留守家族による「海友婦人会」がある。

○ 日通—「家族会」が全国各地に支部、分会の形でポツポツつくられている。まだ全国組織となる段階ではない。

仕事は労働婦人部が担当している。

○ 国鉄—全国各地の地方本部、支部に「家族組合」が結成されていて、なほ新規結成もみられる。

講習会の開催や物資購入あつた。旋、労働金融資本等の消費面の活動が多い。日通は労働大会に主婦が接待に出るのが、労働組に親しむ機会となつてゐる。

○ 組合機関紙に家族版を出すことは、各組織とも活発である。家族版によってボ
ーナス等に因するニユースを流している。

○ 内服をしてゐるものが多い。(曰通)

○ 家族組織としては会費は徴収しない。(日通)

組織化のための指導がほしい（海員）

せいかく組織をつくつても、何をしてよいかに困っている。適當な内駁が切望されてゐるので、家族が余力をさいてできる程度の内駁の情報 あつ旋を望む。

4. その他

○ 家族の中には託しあう余裕さえないものがある。この実態をよくみてほしい。生活の水準を上げてから福利を考える。(港湾)

○ 何でも、平均で出た数字できめられては困る。労働者の実態をよくは握してか

ら発表してほしい。(造船)

○ 船内居住の問題の解決については、特にお願いする。(毫湾)

○ 造船ブームで、注財を打ちながらの連日残業は災害のもとにもなるので、家族は大きな不安を抱き、収入が少くてもよいから残業しない方を望んでいる。(造船)

懇談会(三)——使用着——

この懇談会を開催するに當つては、重要な産業で男子が多敷いっているものについてその勞働形態がそれぐことなるものを跋んでその経営者によびかけましたが、そのうち今

園は造船、機械器具、海運、土建の各事業場からご出席を得ました。

現在実施している家族のための福祉施策の内容やすすめ方は、事業場により多少の相違があります。経営側の立場から家族の福祉についてそれぞれ関心が示されました。

一 企業が労働者家族の福祉施策を実施する場合の観点

○ 勞働者、個々の家族の幸福、生活の向上は各自が考えるべきで、企業としては問題が起きたり処理する、応援を求められたら道をつけてやるといふ観点から人事相談を実施する。極端に言えば企業は単に労働力を買っているのであるから、家族のために内貳のある旗、料理講習のようなことまでしなればならないとは思わない。

○ 家族自身の問題としてやるべきだが、企業はそれを助長する立場でやっている。すな

わち受身の身の上相談的なものから、そういう申出でまなくす環境をつくる方向に目標を向けている。たとえば供給所の利用については、その運営を、利用する家族の立場にあわせるようにすることは、会社の役目だと思う。むずかしく考えないで、家庭を明るくという程度に考えて実施している。

○ 企業従業員の人間関係を家庭にまで進めていくことは企業目的に合致する。

○ 家族に対する福祉施策を会社が行う場合、立脚点の中心は当然生産性向上におく、

二、住宅問題

○ 現在の問題として――

住宅不足の問題と、既存の社宅が極めて安い賃賃料であるため、入居できない者との調整の問題がある。措置としては社宅家賃の値上げ、払下げ等がある。

○ 将来の問題として――

停年後どうするかが問題となっている。退職金差引で労働者の所有とする案が考えられている。

○ 社宅よりも自己所有の家を建てさせる方がよい。その対策としては、
1. 会社の住宅融資、2. 社宅払下、3. 住宅金融公庫申込手続の代行（厚生係）等がある。

三、主婦会について

○ 主婦会は隣組の延長くわいのもので、家族計画その他生活向上のための集りであるのがよい。

○ 主婦会が労組同様になってきたのでやめさせた。

○ 主婦連がグループで何かしたいとき、会社側は幹事役をつとめ、講師のあつ旋、市役所などの連絡等の事務的な面を手伝っている。（経費は主婦連の分担）。家族計画の講話などは会社も応援して社員にもきかせる。

四、夜勤明け労働者の休養の問題

○ 交番制勤務の夜勤終了者が、自宅で睡眠をとろうとしても、狭い家、接続する隣家の騒音等で眠れず、疲労が翌日に残る。この問題については経営者としても困りきつており、何等かの対策が必要なことは痛感しているが、さしあたり対策がない。

五、労働者の欠勤について

○ 欠勤、遅刻、早退が多い者は必ずといってよい程、その家庭に問題がある。家族に病人があるとか、多額の借金をしているなどである。

○ 住宅問題にも関連があるが、通勤に二時間以上かかるものは、できるだけ近くの社宅に入れるように配慮している。

六、主婦が病氣出産等の場合の対策

○ 会社が家政婦を常時用意し、需要に応じるには問題がある。主婦は自分の台所を他人にみられ、それを同じ勤務先の人達に告げられることを嫌がると考えられるので同一人を家政婦として各家庭で利用することはむずかしからう。

○ 家政婦派遣制度の計画はよいことだと思ふが、家政婦を会社の常用品とすることは問題。簡易家事サービス公共職業補導所で研修した人を頼む場合も、会社と雇用関係がなく、特約という形ならよい。

七、労働者死亡後の家族対策

○ 業務上の死亡については未亡人、遺児を雇う場合がある。

○ 生命保険（任意）のかけ金の補助をしている。

○ 四〇才以上の労働者の血圧検査を実施している。

（未帰還者家族に対する見舞金の送金をしている。）